

DATA FILE



単斜晶系

名 前	CROCOITE (クロコイト) / 紅鉛鉍
化学組成	PbCrO_4
色	赤色、オレンジ色
光 沢	ガラス光沢、ダイヤモンド光沢
蛍 光	なし
条 痕	黄色、オレンジ色
劈 開	なし
断 口	貝殻状
硬 度	2.5 ~ 3
比 重	5.9 ~ 6

こう えん こう

紅鉛鉍

CROCOITE

色はあざやかな赤色やオレンジ色で、素焼きの陶板にこすりつけると黄色やオレンジ色の条痕があらわれる。

鉛とクロムの酸化物である紅鉛鉍。クロムとは「色」という意味で、鮮やかなオレンジ色をしたこの元素の化合物が絵の具の材料となった。

紅鉛鉍は、18世紀にロシアのウラル山脈中央部にあるスペルドロフスク鉍山で最初に発見された。

鉍物名の「クロコイト」とは、「サフラン色」を意味するギリシャ語からつけられた。



結晶は細く、通常はそれが大きな束になっている。



ミネラルファイル

硫酸塩鉱物

コ

紅鉛鉱

方鉛鉱の二次鉱物

紅鉛鉱は、クロムを含む母岩中にある方鉛鉱が化学的に分解されてできる二次鉱物だ。石英、黄鉄鉱、白鉛鉱などと一緒に見つかることが多い。

鉛の鉱脈が、クロムを含む母岩に入りこみ、その鉱物の構成元素である鉛、クロム、酸素がすべてそろった酸化帯でしか結晶がつかられないので、きわめてめずらしい鉱物である。

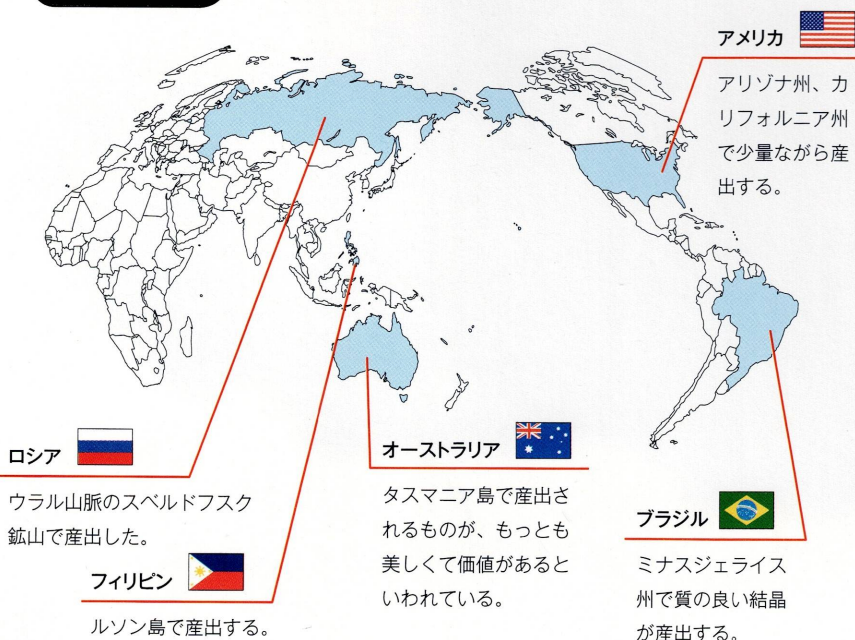


▲優美な細長い結晶の紅鉛鉱。
オーストラリアのタスマニア産。



▲下部が酸化している、オーストラリア産の紅鉛鉱の結晶。

主な産地



取り扱いに注意

かなりやわらかい紅鉛鉱は、アクセサリーとしては使用できないが、コレクション用にファセットカットやカボションカットにカットिंगされることが多い。しかし、非常にこわれやすいことに加え、強い光に長時間さらされると色が薄くなり、美しい光沢が失われるので、コレクションする際は、光を通さない容器に入れて保存するなど、取り扱いには注意が必要だ。



▲ロシアのスペルドロフスクから産出した、先端が切られたような紅鉛鉱の集塊。